

やまだんの 山田野

4

独立行政法人

国立病院機構 北陸病院

〒939-1893 富山県南砺市信末5963

TEL 0763-62-1340 FAX 0763-62-3460

3年間を振り返って



平成20年は子の年です。子（ねずみ）は、七福神の大黒様のお使いだそうです。また、ねずみは、新しい生命が種子の中に宿り始める状態を表しているとも言われ、縁起の良い年なのです。本来はここで総看護師長として平成20年度の抱負を述べるべきなのでしょうが、転勤となってしまいました。そこで富山での3年間を振り返ることといたします。

赴任の時は非常に遠くに感じていた富山でしたが、あっという間に過ぎ去り、この雪を抱いた山々がみられなくなるのはなんともいえない心境です。富山の魅力はなんともいっても景色のすばらしさです。ここに転勤してきた年は飛越探訪ドライブラリーに参加しドライブラリーマップをもとにドライブしたものでした。この「飛越地域」は四季それぞれに映える「日本の原風景」ともいふべき風土、文化、人情などを今に伝え、ふるさとも感じさせ、豊かな自然と共に生きる、まさに「日本の心のふるさと」と呼ぶにふさわしい地域であると、田舎育ちの私は親しみを感しました。また自宅の名古屋に帰る道すがらの東海北陸道や、白川郷と荘川間の156号線の景色は四季それぞれにすばらしいものでした。冬の時期がなんともいっても一番すてきで、墨絵の世界を感じさせる幻想的な山々が何とも言えない光景でした。また春の緑鮮やかな山々、秋の紅葉と運転の苦手な私の疲れを癒してくれました。このように美しい自然や人情が感じられる中で生活でき仕事も頑張れたのですが、冬の寒さ特に宿舍の底冷えには耐えられませんでした。でも雪に縁がなかった私にとってはいろいろな思い出をくれた雪深い地域での3

年間でした。

さて、最後に、地域の方々には北陸病院の良さをもっと知って欲しいと思います。精神疾患は、糖尿病や高血圧と同じで誰でもかかる可能性があります。2人に1人は過去1ヶ月間にストレスを感じていて、生涯を通じて5人に1人は精神疾患にかかるといわれています。当院はストレスケア外来や睡眠外来、認知症外来等行っています。心の不調に気づいたら気軽に相談に来てください。また北陸病院の看護職員は「病む人々に対し人間としての尊厳を守り、生活の質を高め、安全で安心できる看護を提供します」という理念のもとに、患者様一人一人の立場に立った看護が提供できるよう、職員が一丸となって努力しております。精神科領域での専門の看護師としての看護が提供できるよう自己研鑽を積み、自分自身のもてる力を発揮できるよう頑張っています。

(前 総看護師長 木村 久子)





認知症

— 認知症の方との過ごし方 —



副院長 坂本 宏

これまで「認知症とは」「認知症の種類と診断」「代表的な認知症と特徴」とお話してきましたが、最後に認知症の方との過ごし方などについてご紹介します。

1 病気としての認知症を理解するとともに、心の状態・環境・かわり方などによって強く影響を受ける不安定でもろい状態や認知症の方が体験している世界を想像し寄り添うことが大切です。

2 記憶の障害

オウム返しのような即時記憶は保たれ、知識や昔のこと体で覚えたことは比較的長く残りますが、数分から数週間前のできごとをすっかりと忘れやすいのが特徴です。そのため同じことを繰り返したり尋ねたりします。ヒントがあっても思い出せませんし、うつろいやすいものは苦手で、現在から過去にさかのぼって忘れていきますが、今と昔を行ったり来たりします。今その方がどういう状況にいるのか想像して合わせてください。

3 身近な人や頼りにしている人の前で症状が強く現れやすいのも特徴の一つです。診察場面や介護保険の調査などあらたまった席では割としっかりと対応でき、その場を取り繕って短時間なら何とかやりすごせる方でも、いつも一緒の家族の前では安心して気が緩み依存的、感情的な認知症の症状がでやすくなります。頼りにされていることの裏返しと思ってください。

4 自分に不利になるようなことはなかなか認めません。自分の置かれている状況が不確

かになり心細くなっている中で、精一杯自分を守ろうとしており、排泄などで失敗したことは自分の責任ではないと決して認めません。それを指摘しても感情的なしこりが残るだけでいいことは何もありません。

5 健康的な判断や行動がとれる時と認知症の状態の時とが混在します。あらゆる能力が等しく傷害されるわけではありません。わかることがあればわからないこともあり、できることもあればできないこともあり、さらに心身の調子や環境などによって同じことでもわかる時やわからない時、できたりできなかったりします。その方に寄り添いながらの援助で能力が発揮されます。

6 自分が言ったり行ったことは忘れても、感情（特に嫌な思い）はよく残ります。日中に起こった不快なことは忘れていても夜になって不機嫌になったりします。

7 少しでも確かなものに頼るため一つのことにとこだわります。否定されるとなおさら強くなります。安心していただけるような取り計らいが大切です。

認知症の状態でも一人一人が違った歴史、体験、感情を持っています。その人の過去、現在に共感を寄せて受け入れるようにすると安心してその人なりの尊厳を保つようになり輝きを取り戻すことも可能だと思います。その人の身になることで信頼を得られるでしょう。

〈搁筆〉



「やまだんの」を去るにあたって

僕が病院への通勤でよく聴いていた宇多田ヒカルの「keep tryin」♪という曲の一節、「将来、国家公務員だなんて言うなよ……♪」という乗りのよい箇所につい吊られて、というわけではありませんが（ちなみに、……♪の箇所に深い意味はありません）、僕は、平成20年3月をもって、13年と5か月間勤務させていただきました国立病院機構北陸病院を退職いたしました。長い間、みなさんに大変お世話になりました。これだけの期間勤務できた理由を簡潔に言うなら、やはり、この土地がとても好きだったからだと思います。水が合うという言葉がありますが、まさに、それだったんだと思っています。

今回は退職にあたり、医師という立場を離れて、自分の好きな作家の一人であるレイモンド・カーヴァーの小説について、少し書かせていただきます。彼は人生の喪失感を潔く書ききることのできる作家（1988年に50歳で肺がんで亡くなっています）だったと思いますが、中でも、最近改訳されて出版された『象』という短編集は、最晩年に書かれただけに、「死」の気配が、どの作品にも（決して陰鬱ではない形で）漂っている感じがします。そこに収録されている『誰かは知らないが、このベッドに寝ていた人が』というタイトルの短編は、終末期の医療について考えさせるような作りになっています。レイモンド・カーヴァー自身が、まるでこの先自分の身に起こることを悟っていたかのようにさえ思えてきます。話は、深夜に一件の間違い電話で

起こされ眠れなくなった（中年を超えたであろう年齢の）夫婦が、最近のお互いの心身の不調を語り始め、やがては、お互いの最後の時に、人工呼吸器を着けるかどうか、という話にまで発展していきます。途中に挿入されている、ある男が自分の父親の人工呼吸器を外させるために、ショットガンをもって病院の集中治療室に押し入ったという話は、（アメリカ的過ぎて）やや乱暴な感じですが、作品全体のトーンはとても読み応えがあり、考えさせられるものです。作品の訳者は作家村上春樹であるだけに、読みやすく、翻訳ものの独特のごつごつした感じがまったくありませんので、機会があれば、ぜひ読んでみてください。



最後に北陸病院へ話題を戻しますが、毎年、春に、当然のように見ていた正門からの桜並木が、北陸病院の勤務者でない立場の視点では、どんな風景と感じるのか、（来年以降になるとは思いますが）出来れば満開の頃、それを眺めに行きたいと思っています。

（前 神経科医長 林 眞弘）

外来担当医表

項 目	月	火	水	木	金
精神科・神経科（初診）	市川	坂本	白石	石崎	岡本
精神科・神経科（再診）	石崎	白石	岡本	市川	村田
神経内科	小竹	小竹		小竹	小竹
内 科	渡辺	渡辺	渡辺	荒幡	渡辺
専 門 外 来	睡眠（初診）		古田	古田	
	睡眠（再診）		竹内	古田	細川
	神経難病	●受付・診療時間・・・8:30～11:30 診察は全て予約制となっています。 睡眠外来ではセカンドオピニオンも実施しています。 地域医療連携室にご相談ください。 【地域医療連携室 直通電話】0763-62-1950			
	重症心身障害				
	アルコール				
	もの忘れ				
	ストレスケア				

ボランティア受入状況について

（城端地区）

笠舞乱華、すみれグループ、あんだんて、たんぼぼグループ、
法話ボランティア、茶道ボランティア、民謡ボランティア

（福光地区）

語り部ひまわりの会、はまゆうの会、あじさいの会、秀峰会、
ナント・ハーモニー、さわやかグループ、花ボランティア



以上の方々にボランティアに来ていただいています。患者様の療養生活に、元気とやすらぎを与えてくださる皆様の活動を、本年度もお待ちしております。よろしくお願い致します。（地域医療連携室）

【交通アクセス】

◆交通機関

JR 城端線、城端駅より、タクシーで約5分。

◆高速道路

東海北陸自動車道、福光ICより約5分。

◆南砺市コミュニティバス

JR 城端駅・福光駅より出ています。



独立行政法人 国立病院機構 北陸病院

〒939-1893 富山県南砺市信末5963

TEL 0763-62-1340 FAX 0763-62-3460

ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~hokuriku/>

【編集・発行】北陸病院

【広報担当】石崎・吉岡・前田・寺井